

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
角館	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
能代松陽	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

雨の決勝戦、接戦を制す

23日、秋田市のこまちスタジアム3塁側観客席には、角高応援団のほか卒業生、地元の人々が大勢詰めかけ、大応援となつて声援を送ります。

雨模様の中、始まった能代松陽との決勝戦。角館高校は3回に先制点を奪つと、続く4回も集中打で2点を加え、その差を3点とします。

守っては、エース相馬投手の力投を守備陣が好守で盛り立て、能代松陽打線を抑えます。5回以降は一進一退の攻防。両者譲らず0点が続ぎ、試合はついに最終回を迎えます。

3点リードし9回ウラの守備に着く角館高校は、1アウトからフォアボールとヒットで2、3塁のピンチを迎えますが、続くバッターを三振に取り2アウト。優勝まであと1人、応援団からひととき大きな声援が選手に送られます。次のバッターが打ち返した打球がライト前ヒットとなり、3塁ランナーがホームインし、能代松陽に1点が入ります。2塁走者も本塁を狙い3塁を駆け抜けましたが、ライト小笠原選手の好返球がキャッチャー千葉選手に返り、ホームベース上でタッチアウト。

この瞬間、角館高校の優勝が決定し、3塁側観客席から今日一番の大歓声が沸き上がり、グラウンドでは選手たちが、お互いの肩をたたき、勝利の喜びを分かち合う姿が見られました。

勝利を称え流れる角館高校の校歌に合わせ、選手も応援団も、喜びの歌声を高らかに球場に響かせました。



角館高校(第7シード)今大会戦績

7月16日 2回戦 角館 12-1 ニッ井 (5回コールド)

18日 3回戦 角館 7-3 能代

20日 準々決勝 角館 6-0 秋田南

21日 準決勝 角館 7-0 由利工 (7回コールド)

23日 決勝 角館 3-1 能代松陽

※旧角中時代(1946)から68年ぶり2回目の優勝

角館高校野球部(敬称略)

部長 渋谷 知

副部長 高橋健一

監督 湯澤 淳

主将(捕) 千葉天馬(3年)

一 藤田航平(3年)

二 長澤征哉(3年)

三 小木田敦也(1年)

遊 佐藤星太(3年)

左 小松翔太(3年)

中 赤倉 匠(3年)

右 小笠原翔太(3年)

控 鈴木光一(2年)

伊藤健也(3年)

若松達也(3年)

須田忠厚(2年)

工藤清生(3年)

高橋杏一(2年)

小松駿太郎(3年)

赤上優人(1年)

大石海斗(2年)

藤川優斗(3年)

小松 陸(3年)

記録員 小松葉瑠(3年)

※決勝戦出場選手名簿から紹介



第96回全国高校野球選手権秋田大会

角館高校 優勝

念願の甲子園へ

雨の決勝戦 能代松陽との接戦を3-1で制する

叶えた悲願 角館高校ついに頂点へ

全国高校野球選手権秋田大会、昨年に続き、決勝進出を決めた角館高校。昨年の同大会では、秋田商業との決勝戦で延長15回を戦い抜き、惜しくも準優勝。秋季県大会を制し、続く東北大会でもベスト8、春季選抜大会の21世紀枠候補となるも、残念ながら選ばれませんでした。

甲子園出場への思いを胸に、チーム一丸となり臨んだ今大会。角館高校は、勝負強い打線が先制点、追加点を挙げ、堅守で相手チームに付け入る隙を与えない戦いぶり、トーナメントを勝ち進み、決勝戦に駒を進めます。

同じくトーナメントを勝ち上がってきた能代松陽との決勝戦、角館高校は大応援団の声援と期待を背に、懸命のプレーを続けました。最終回、粘る能代松陽の反撃を好守で1点に抑さえ勝利。角館高校が念願の甲子園への切符を手に入れました。

8月9日から、兵庫県西宮市阪神甲子園球場で開催される、全国高等学校野球選手権大会。(6日抽選会)

高校球児あこがれの舞台甲子園で、角館高校の全国への挑戦が始まります。

